

県政からの風

県議会政務活動報告書
2020.春号



とちぎ食肉センター新施設視察

内容

- ごあいさつ 1
- 新型コロナウイルス感染症への対応 2
- 2022年躍動するアスリート待つ 3
- 足利西部の安全で円滑な交通確保へ 5

栃木県議会議員

加藤 正一



人に安心!

暮らしにゆとり!

地域に元気!

ソフト・スマイル・エネルギー!

ごあいさつ

未来技術活用でものづくり県を進化

第362回通常会議は3月24日最終本会議を開き、令和元年台風19号被害からの復旧・復興費含む総額8,373億7千万円の2020年度県一般会計当初予算案など上程49議案を可決。



山田みよこ議員 代表質問

当初予算には「政策経営基本方針」の重点事項や最終年度となる「とちぎ元気発信プラン」の総仕上げ、県人口の減少抑止・人口の県外転出超過解消など未達成の課題解決へ「15（いちご）戦略（第2期）」の推進など所要の事業費を措置。Society5.0社会へデジタル戦略の策定やAI等活用したスマートサプライチェーン構築助成、にら出荷調整機やいちご新品種生育等予測ツール開発による省力化へスマート農業導入補助、無人運転移動サービスの調査・実証事業等々、未来技術を活用したとちぎの新時代を創造。



松井正一議員 一般質問

条例案では幼保連携型認定こども園従事職員の配置に係る特例期間延長や、本県が誇るいちご栽培の人材確保へ農業大学の学部再編など所要の改正を行う。

民主市民クラブは芳賀町・宇都宮市LRT整備事業に対する県補助金6億3千万円と、LRT関連交通安全施設整備費73,705千円の支出を見送る一般会計予算修正案を提出、私が提案説明を行ったもの

賛成少数で否決。私たちは一貫して「民意なきLRT事業反対」の姿勢で臨んできました。宇都宮市が市民の理解促進に様々取組む中、2月下旬会派で行った市民意向調査は賛成約25%、反対約50%と4年前の調査と変わらず、採算性が取れないとの回答は今回60%を超える。厳しい県財政のなか多額の補助金を支出する県としても、市民・県民の理解促進へ更なる取組が必要と考えます。



中屋大議員 予算特別委員会総括質疑

今議会では山田みよこ議員（宇都宮市・上三川町5期）が代表質問、松井正一議員（鹿沼市4期）が一般質問、中屋大議員（小山市・野木町2期）、斉藤孝明議員（宇都宮市・上三川町4期）が予算特別委員会で質疑を行いました。《何れも県議会HPで視聴できます》

また、27日の臨時会議では国の新型コロナウイルス緊急対応策（第2弾）に呼応し、検査・医療提供体制の整備、中小企業の資金繰り支援、生活福祉資金貸付事業等加えた補正予算を可決。

今後、新型コロナウイルスへの感染拡大防止へ検査・医療機関の状況、県民生活及び産業活動への影響を注視しながら、感染症沈静化後を見据えた取組を検討して参ります。



斉藤孝明議員 予算特別委員会総括質疑

新型コロナウイルス感染症への対応について（補正予算等）

新型コロナウイルス感染症への対応のため、国の緊急対応策（第2弾）を受け、検査・医療提供体制の強化や感染拡大防止対策を講じるとともに、中小企業の資金繰りの支援や有料道路の無料化による県民の観光需要喚起等に迅速かつ適切に対処する。

補正予算案総額：81億円（令和元（2019）年度：5億円、令和2（2020）年度：76億円）

1 検査・医療提供体制の強化 2億円

◇PCR検査体制の強化

- ☆民間検査機関へのPCR装置の導入支援
- ☆増加する行政検査への対応
- ☆保険適用に伴うPCR検査の委託による実施

◇医療提供体制の整備

- ☆外来及び入院協力医療機関における医療機器等の整備支援
- ☆帰国者・接触者相談センターの強化（24時間電話相談）

3 事業活動の縮小や雇用への対応 67億円

◇相談窓口の設置等

- ・経営、融資、融資、労働者、外国人向け相談窓口の設置
- ・栃木県勤労者生活資金による融資の実施

◇強力な資金繰り対策

- ☆「新型コロナウイルス感染症緊急対策資金」（融資枠200億円）での低金利貸付けや保証料補給・利子補給による資金繰り支援
- ・金融機関等へ迅速かつ適切な融資等の配慮を要請

◇サブプライチエーン毀損への対応

- ☆サブプライチエーン再構築のための生産設備整備等への助成
- ・生産設備のみの投資も対象とするなど、企業立地補助金制度の要件を緩和
- ・産業技術センター機器の使用料・手数料の減免（無料化）

2 感染拡大防止対策と学校の臨時休業等への対応 9億円

◇感染拡大防止対策

- ☆介護施設等へのマスク・消毒液の配布等
- ☆就労系障害福祉サービス事業者のテレワーク導入支援
- ☆外国人向け新型コロナウイルス相談ホットラインの運営

◇学校の臨時休業等への対応

- ☆放課後等デイサービスへの助成
- ☆生活福祉資金貸付事業拡充のための貸付原資等への助成

4 県民に向けた観光や消費の需要喚起の推進 3億円

◇県産農産物への対応

- ・とちぎの地産地消元気アップ運動による関係団体と一体となった県産農産物の消費拡大PR

◇観光業等への対応

- ☆宿泊施設における無料Wi-Fi環境整備や市町観光協会等による感染拡大防止対策等への支援
- ☆県民の観光需要喚起に向けた休日等の有料道路の無料化
- ・県民一家族一旅行の推進
- ・観光や消費の需要回復に向けた対策の検討（旅行券等）

☆補正予算対象事業

2022年躍動するアスリート待つ！

県総合スポーツゾーン整備

今年7月24日開催予定の東京オリンピック・パラリンピックが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため1年延期し、来年夏に開催することとなりました。

一方、2年後の2022年、第35回栃の葉国体以来42年ぶりの開催となる「いちご一会とちぎ国体」に向け県は、宇都宮市西川田地内の県総合運動公園及び隣接の元競馬場や元運転免許試験場等へ、拠点会場となる総合スポーツゾーン整備を進めている。このほど中核施設の新スタジアムが、完成を迎えることから現地を視察。



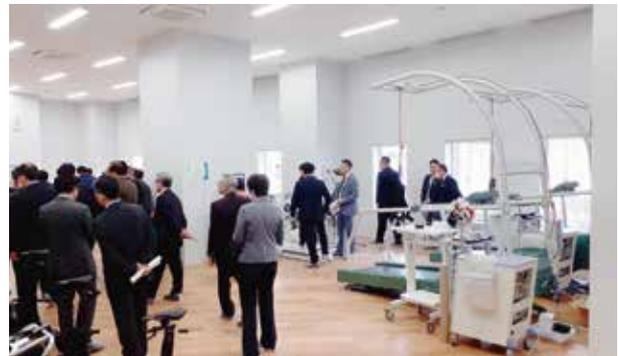
新スタジアム観客席

“主役はひと”の観点から「する・観る・支える」スポーツへと、それぞれに対応した施設構造、人の動線などを確保し、《県民に愛され、誇れる、県民総スポーツの推進拠点》にふさわしい施設をイメージする。

県産材や県産品を積極的に活用し、県内企業の技術を結集した“とちぎ”を表現。周辺環境との調和や施設の耐用年数経過後までの生涯費用、ライフサイクルコストの最適化により県民に末永く、“100年愛

される”施設として整備。

新スタジアムは延床面積約42,000㎡の鉄筋コンクリート造4階建、屋根は幕屋根の構造。約25,000席の観客席を設け、400mトラック×9レーンは全天候型舗装により第1種公認施設となる。サッカー場は天然芝1面、ピッチ105m×68mのJリーグ施設基準。スタジアム内のエントランスやラウンジ、廊下など様々な所に県産材の杉や大谷石、鹿沼組子等使用。



スポーツ医・科学センター パフォーマンスルーム

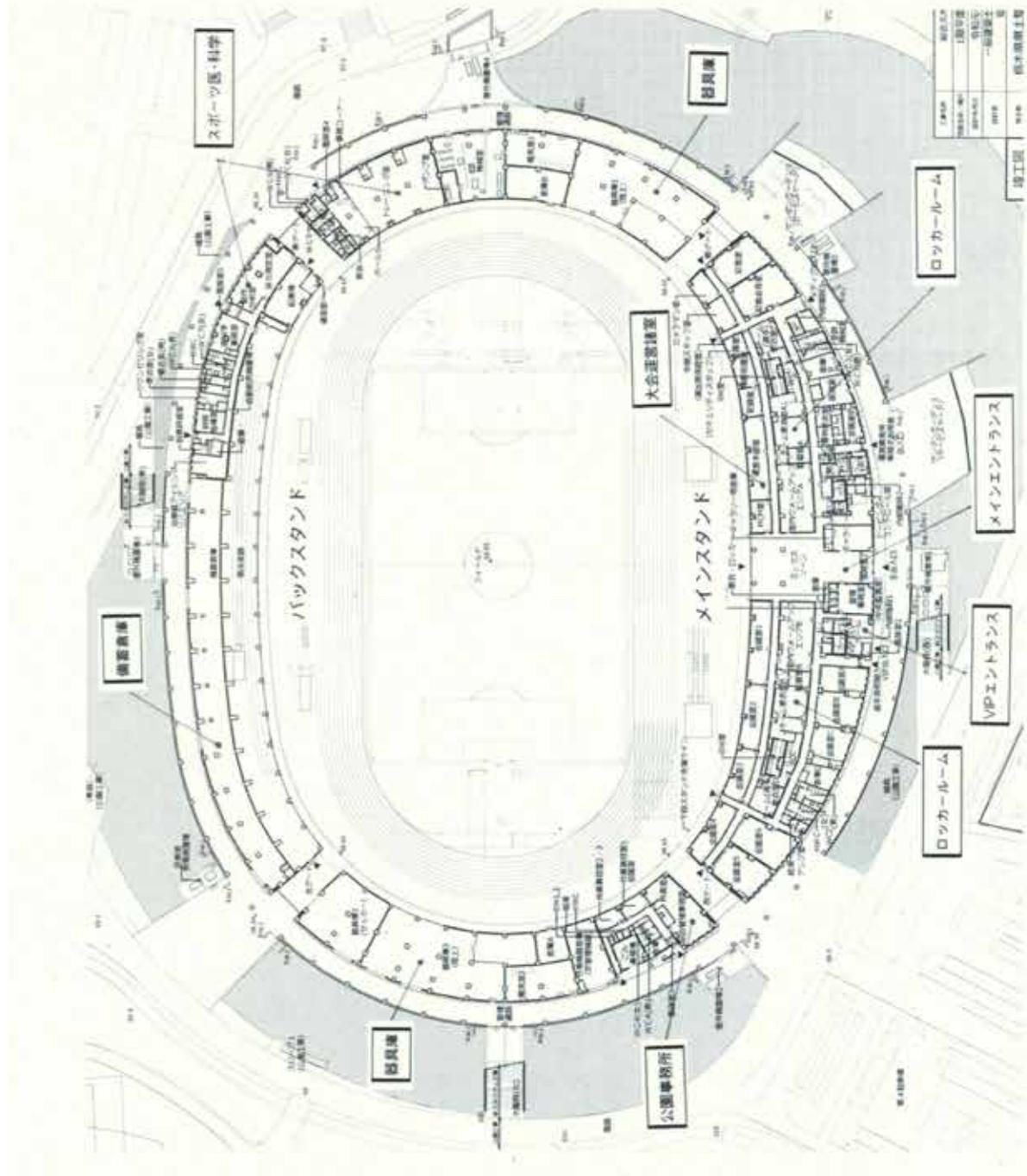
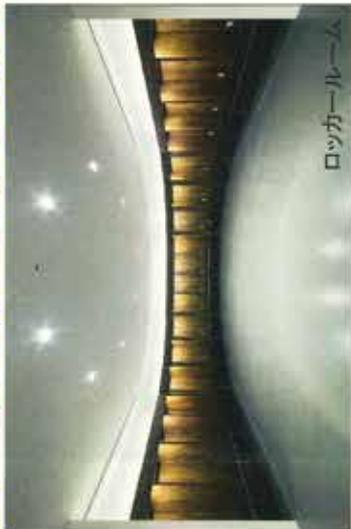
スタジアム東ゲート付近には「とちぎスポーツ医科学センター」が設置され、各種機器を使用したトレーニングで競技力の向上を図るとともに、体力測定データに基づく医科学的相談や栄養面に関する指導等行う。バックスタンド下には災害時の備蓄倉庫、スタジアム周辺には非常用仮設トイレが設置可能。

国体開催の前年に各競技のリハーサル大会が予定され、本大会は2022年10月1日開幕。37の正式競技に加え、特別・公開6競技などに選手・監督等約22,000人が集う。

躍動するアスリート、観客の熱い声援で「夢を感動へ。感動を未来へ。」



新スタジアムメインスタンド



足利西部の安全で円滑な交通確保へ

県道名草小俣線小俣立体事業



小俣立体安全祈願

県が平成25年度から整備を進めてきた一般県道名草小俣線「小俣立体」事業が完成し、3月22日より供用開始となった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため開通式を見送る一方、供用開始に先立ち小俣立体開通式実行委員会（小俣自治会連合会・萩原晴夫会長）主催による安全祈願が行われた。

当日は天候にも恵まれ、地元住民や県・市、工事関係者ら約40名が出席し、私も地元議員として参加。



小俣立体全景（南側）

同路線は足利市の名草地区と小俣地区を結ぶ幹線道路ですが、JR両毛線高林街道踏切は大型車の交通量が多いにも関わらず、幅員が狭いことから「交通のボトルネック」となっていた。大型車と通学児童等歩行者が混在するなど、交通安全の面からも課題とされ、地元では約30年前より改善要望。

小俣立体は小俣駅の南東約800mに位置し、両毛線や小俣川を高架で渡り県道桐生岩舟線と周辺の市道をつなぐ陸橋として整備。完成に伴い今後は、高林街道踏切への大型車の通行規制をかける

こととなります。

事業概要は延長440mの道路幅員11m、3m×2の車道と西側に設置した片側歩道3m。主要構造部はJR跨線部（小俣跨線橋）橋長133mで、事業費は約20億円です。

当日は萩原会長より、郷土の偉人木村半兵衛が明治22年に敷設し130年を経た両毛線の歴史に触れ、同線が小俣地区を南北に分かつ状況に加え、列車通過時の踏切遮断時間が長いなど同事業着工に至るまでの地元要望活動の経過と合わせ、周辺住民並びに各行政機関、無事完成となった工事関係者への謝意が述べられた。

続いて、路面に酒をまいて安全祈願をした後、徒歩で立体を渡り開通を祝いました。

本事業は歩行者らの安全な交通が確保されることはもとより、地域間の交流や連携の向上、さらには県境を越えたヒトとモノの往来など小俣地区に止まらない、足利市西部地区の活性化へ寄与するものと期待しています。



小俣立体開通

事業の概要

■ 小俣立体全体図

路線名称 : 都市計画道路 3・5・114号
小俣立体交差線

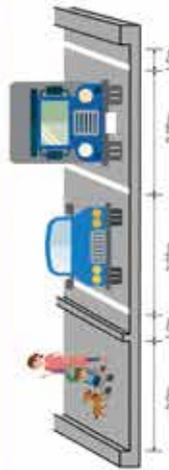
計画延長 : 186.5m

計画幅員 : 一般部 W=11.0~12.0m
橋梁部 W=11.5m
(車道3.25m, 歩道3.00m)

道路規格元 : 第4種 第2級 設計速度 40km/h

交通量 : 4,757台/日

構造物 : 車輻プレビュー合成桁橋 27.0m
3径間連続鋼床版桁橋 85.0m
PC2径間連続中空床版橋 48.0m



1 小俣川渡河部:プレビュー桁橋

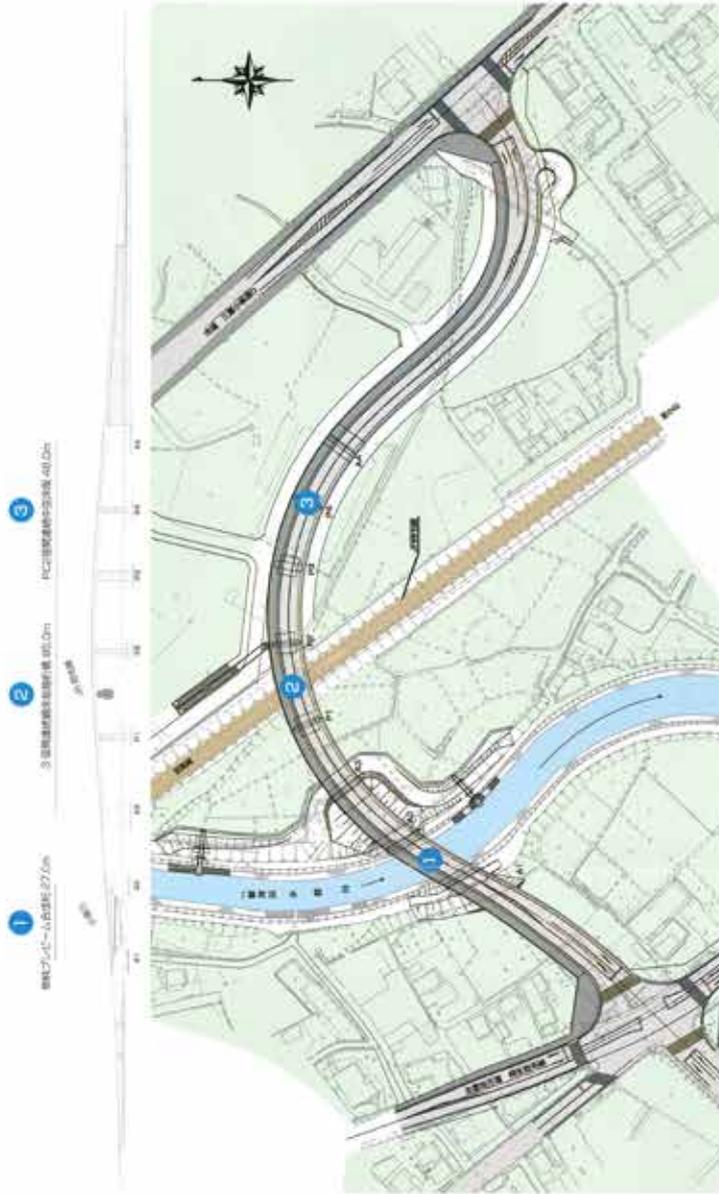
- ・低騒音、桁高変化が可能で経済性に優れる
- ・コンクリートであり維持管理が容易
- ・河川部の景観に馴染む

2 JR両毛線跨線部:鋼床版桁橋

- ・曲線橋への対応が可能
- ・JFE特殊鋼の影響を最小とする架設が可能
- ・橋脚部等に配慮した耐震性鋼材を採用

3 北朝アローチー部:PC中空床版橋

- ・曲線橋への対応が可能で経済性に優れる
- ・コンクリート橋であり維持管理が容易



■ 免震構造 地震エネルギーを分散吸収する免震支承を採用し地震に強い橋梁としています。

